

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

“わかりやすい”は面白いにつながる！ —マルチメディアDAISY図書を活用して

鳥取大学附属特別支援学校
司書教諭 田中葉子

はじめに

本校の図書館教育の推進にあたっては、「知的発達に遅れのある子どもたちにも読書の楽しさや情報を保障したい」との思いから、学校図書館の整備を進めてきました。年間の全校児童・生徒への貸し出し図書を分析すると、どの学年も、絵や写真の多い図鑑やアイドルの雑誌、アニメやゲームの映像が本になっているものなど、文字が少なく物語ではないものを好んで読んでいることがわかります。

目的

本校では、年度初めの4月中に、全校の児童・生徒を対象として「図書館オリエンテーション」を実施します。図書館の利用の仕方や決まりなどの学習に加え、図書館資料の一つとしてマルチメディアDAISY図書を大型スクリーンに投影して視聴します。知的発達の遅れがあるために、活字のみの図書や音声のみの読み聞かせでは内容を理解しきれない子どもたちも、物語の展開を楽しみながら聞いている様子が

見受けられました。

中学部では、自分の将来の生活と職業について考える進路学習を行います。マルチメディアDAISY図書の特性を活かすことで、学習の目的をわかりやすく伝えるとともに、自分の問題として主体的に取り組める効果が期待できると考え、今回の実践をしました。

活動の様子

単元名「将来の自分・どんな仕事をしたいですか？」

～将来の生活・さまざまな仕事・自分にあった仕事～（4時間）

*学年・構成

中学部1・2・3年生 8名

*マルチメディアDAISY図書

『ぼちぼちいこか』

*学習のねらい

第1時 将来の生活をイメージし、困ったときに相談をすることや身だしなみを整えることなど、自分でできることを増やす。

第2時 これからの生活で、自分に必要な力を把握する。

第3時 仕事内容を分類し、自分に向いている仕事を考える。

第4時 興味を持った仕事内容について調べ、必要な資格や技能、進学先を知る。

生徒の実態

対象の生徒は、知的障害や広汎性発達障害、ADHD、場面性緘黙症とさまざまな障害を有し、知的発達の程度も幅のある集団です。音声指示のみでは意図が伝わりにくく、一文が長いと意味の読み取りがむずかしい実態があります。学習で使用するワークシートは、漢字にふりがなをつけて簡潔な言葉で表記したり、回答欄に枠を設けたりするなど、視覚的にわかりやすく捉えられるような工夫が必要です。また、長文を読む時には、読んでいる文を指でなぞることで、目で追えるよう支援が必要な場合もあります。

第3時の展開

- ①ワークシートに沿って、仕事を分類する。(A:人とたくさんかかわる仕事 B:1人で作業することが多い仕事)
- ②A・Bどちらの仕事が向いているか考える。
- ③やってみたい仕事を書き出す。
- ④ワークシートに沿って、仕事を分類する。
(A:体を動かす仕事 B:考えること

が多い仕事)

- ⑤A・Bどちらの仕事が向いているか考える。
- ⑥やってみたい仕事を書き出す。
- ⑦マルチメディアDAISY図書『ぼちぼちいこか』の視聴をする。
- ⑧まとめの話。

指導のポイント

〈選書〉

- 生活年齢に合った内容のもの。
- 一文が短く簡潔な言葉で書かれているもの。
- 繰り返し構造になっており、物語の展開がわかりやすいもの。
- 挿絵が多く、物語の内容の把握を補えるもの。

〈指導・支援〉

- わかりやすく視聴できる機能の一つとして、読まれている文字がハイライトで示されることを予め説明する。
- マルチメディアDAISY図書を再生するときに、生徒の聞きやすい速さに調整する。



『ぼちぼちいこか』を視聴

成果と課題

今回の学習は、生徒たちが学習グループのみんなで共有したい話題の一つ「将来の自分・どんな仕事をしたいですか？」というテーマを教材にして展開しました。

中学部の生徒たちは、将来の生活へ抱いている思いやイメージもさまざまな段階です。一人暮らしをすることや運転免許を取得することなど、イメージしやすい事柄の問いかけから始め、何歳で働き始めているか、どんな種類の職業に興味があるのか、と具体的な仕事内容へ進めていきました。進めていく中で、具体的に就きたい仕事を決めている生徒や、まだ特に仕事のことは決めていない生徒がいました。

そんな生徒たちに、『ぼちぼちいこか』の内容は、“さまざまな夢をもって

挑戦し、失敗と休憩をくり返しながらくゆっくりいこう”というメッセージがぴったり合っていました。読まれている部分がハイライトで示されることによって、目で追いながら文章を読み込むことができ、物語の内容が理解しやすかったようです。音声のみの読み聞かせでは、内容の理解がむずかしく集中が持続しにくい生徒も、最後まで読むことができました。また、読み聞かせの速さを生徒たちの聞きやすい速さに調整することにより、じっくりと物語を聞き、笑顔や声を出して笑う生徒も多く、わかりやすさを実感しました。

休憩時間の余暇や朝読書などの読書活動として活用されることが多いですが、今後は、学習の教材としても活用されることが増えていくことを期待します。

